

2017年1月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

- 1月5日に福島県沖の深さ約 55km で M5.3 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
- 1月5日に福島県沖で M5.6 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。この地震は2016年11月22日に福島県沖で発生した M7.4 の地震の活動域で発生した地震で、陸のプレートの地殻内で発生した地震である。
- 1月26日に岩手県沖の深さ約 35km で M5.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 1月28日に秋田県内陸南部の深さ約 150km で M5.0 の地震が発生した。この地震の発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

(3) 関東・中部地方

- 1月13日に千葉県北東部の深さ約 50km で M4.9 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。
- 1月18日に茨城県沖の深さ約 55km で M4.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 東海地方の G N S S 観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくと思われる変化は観測されていない。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

- 1月11日に熊本県熊本地方の深さ約 10km で M3.4 の地震が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型で、地殻内で発生した地震である。

注： G N S S とは、 G P S をはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。

2017年1月の地震活動の評価についての補足説明

平成 29 年 2 月 9 日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2017 年 1 月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード (M) 別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0 以上および M5.0 以上の地震の発生は、それぞれ 76 回 (2016 年 12 月は 99 回) および 10 回 (2016 年 12 月は 15 回) であった。また、M6.0 以上の地震の発生は 0 回 (2016 年 12 月は 3 回) であった。

(参考) M4.0 以上の月回数 73 回 (1998-2007 年の 10 年間の中央値)、
M5.0 以上の月回数 9 回 (1973-2007 年の 35 年間の中央値)、
M6.0 以上の月回数 1.4 回、年回数約 17 回 (1924-2007 年の 84 年間の平均値)

2016 年 1 月以降 2016 年 12 月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

— 青森県三八上北地方	2016 年 1 月 11 日	M4.6 (深さ約 10km)
— 浦河沖	2016 年 1 月 14 日	M6.7 (深さ約 50km)
— 熊本地震	2016 年 4 月 14 日	M6.5、4 月 16 日 M7.3 (深さ約 10km)
— 茨城県南部	2016 年 5 月 16 日	M5.5 (深さ約 40km)
— 内浦湾	2016 年 6 月 16 日	M5.3 (深さ約 10km)
— 茨城県北部	2016 年 7 月 27 日	M5.4 (深さ約 55km)
— 熊本県熊本地方	2016 年 8 月 31 日	M5.2 (深さ約 15km)
— 沖縄本島近海	2016 年 9 月 26 日	M5.6 (深さ約 45km)
— 鳥取県中部	2016 年 10 月 21 日	M6.6 (深さ約 10km)
— 福島県沖	2016 年 11 月 22 日	M7.4 (深さ約 10km)
— 茨城県北部	2016 年 12 月 28 日	M6.3 (深さ約 10km)

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

— 2016 年 12 月 28 日に M6.3 の地震が発生した茨城県北部では、1 月に震度 1 以上を観測する地震は 13 回発生した。1 月に発生した最大の地震は、1 月 1 日に発生した M3.7 の地震である。地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。

— 「東海地方の G N S S 観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくと思われる変化は観測されていない。」:

(なお、これは、1 月 30 日に開催された定例の地震防災対策強化地域判定会における見解 (参考参照) と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地殻活動(平成 29 年 1 月 30 日気象庁地震火山部)
「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくと思われる変化は観測していません。」

1. 地震の観測状況

全般的に顕著な地震活動はありません。

2. 地殻変動の観測状況

G N S S 観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向は継続しています。

平成 2 5 年はじめ頃から静岡県西部から愛知県東部にかけての G N S S 観測及びひずみ観測にみられている通常とは異なる変化は、小さくなっています。

3. 地殻活動の評価

平成 2 5 年はじめ頃から観測されている通常とは異なる地殻変動は、浜名湖付近のプレート境界において発生している「長期的ゆっくりすべり」に起因すると推定しており、現在は、「長期的ゆっくりすべり」は緩やかになっていると考えられます。

そのほかに東海地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られていません。

以上のように、現在のところ、東海地震に直ちに結びつくと思われる変化は観測していません。

なお、G N S S 観測の結果によると「平成 2 3 年(2 0 1 1 年)東北地方太平洋沖地震」による余効変動が、小さくなりつつありますが東海地方においてもみられています。」

(4) 近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

(5) 九州・沖縄地方

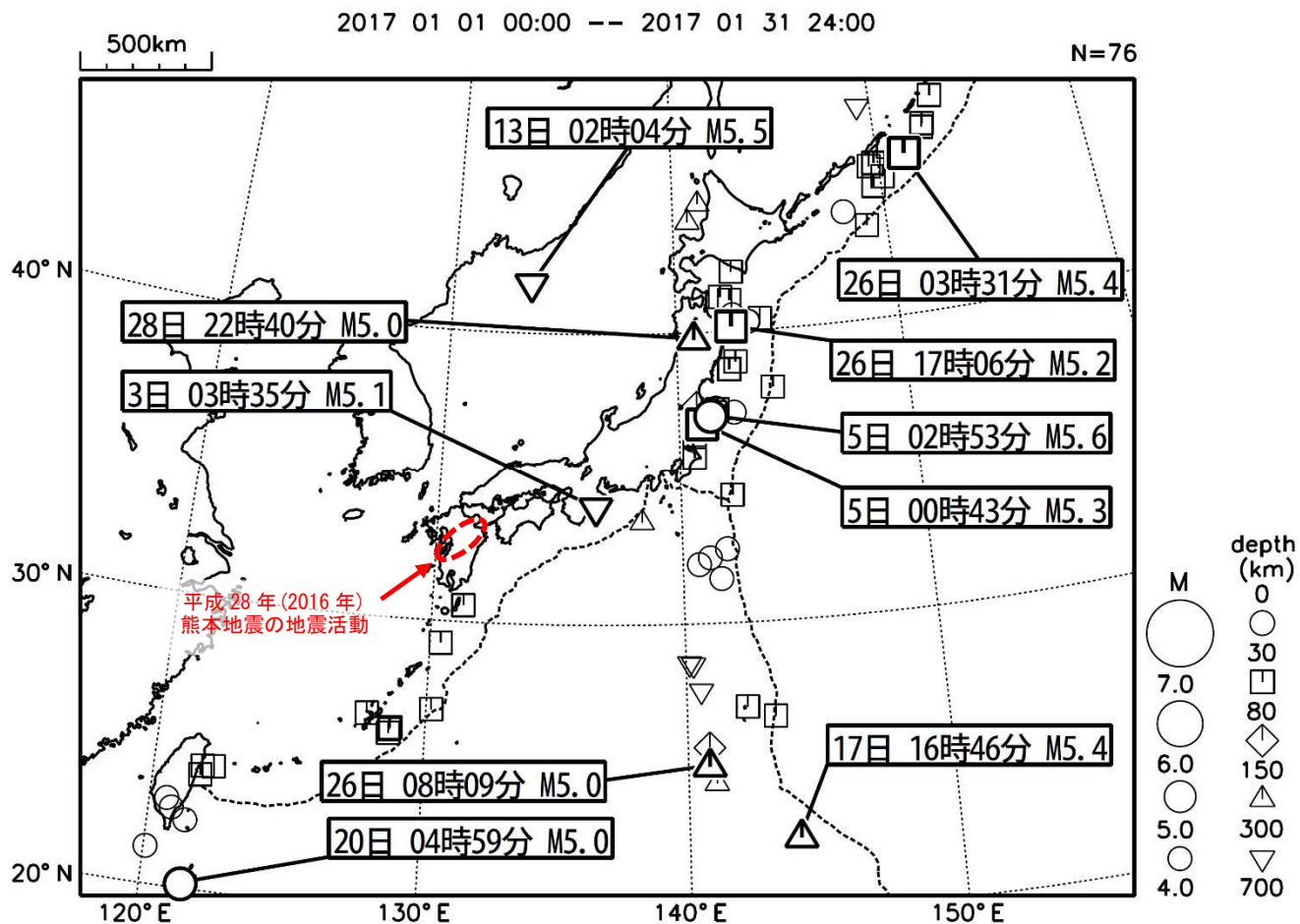
— 「1 月 11 日に熊本県熊本地方の深さ約 10km で M3.4 の地震が発生した。(以下、略)」:

熊本県熊本地方及び阿蘇地方では、1 月に最大震度 4 以上を観測する地震は 1 回(2016 年 12 月は 0 回)、最大震度 3 を観測する地震が 1 回(2016 年 12 月は 3 回)発生した。熊本地方及び阿蘇地方における平成 28 年(2016 年)熊本地震の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。G N S S 観測結果によると、一連の地震活動域を中心とした余効変動は引き続き観測されている。

参考 1	「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安 ①M6.0 以上または最大震度が 4 以上のもの。②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。 ③海域 M5.0 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。
参考 2	「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。 2 「主な地震活動」として記述された地震活動(一年程度以内)に関連する活動。 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2017 年 1 月の地震活動の評価に関する資料

2017 年 1 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



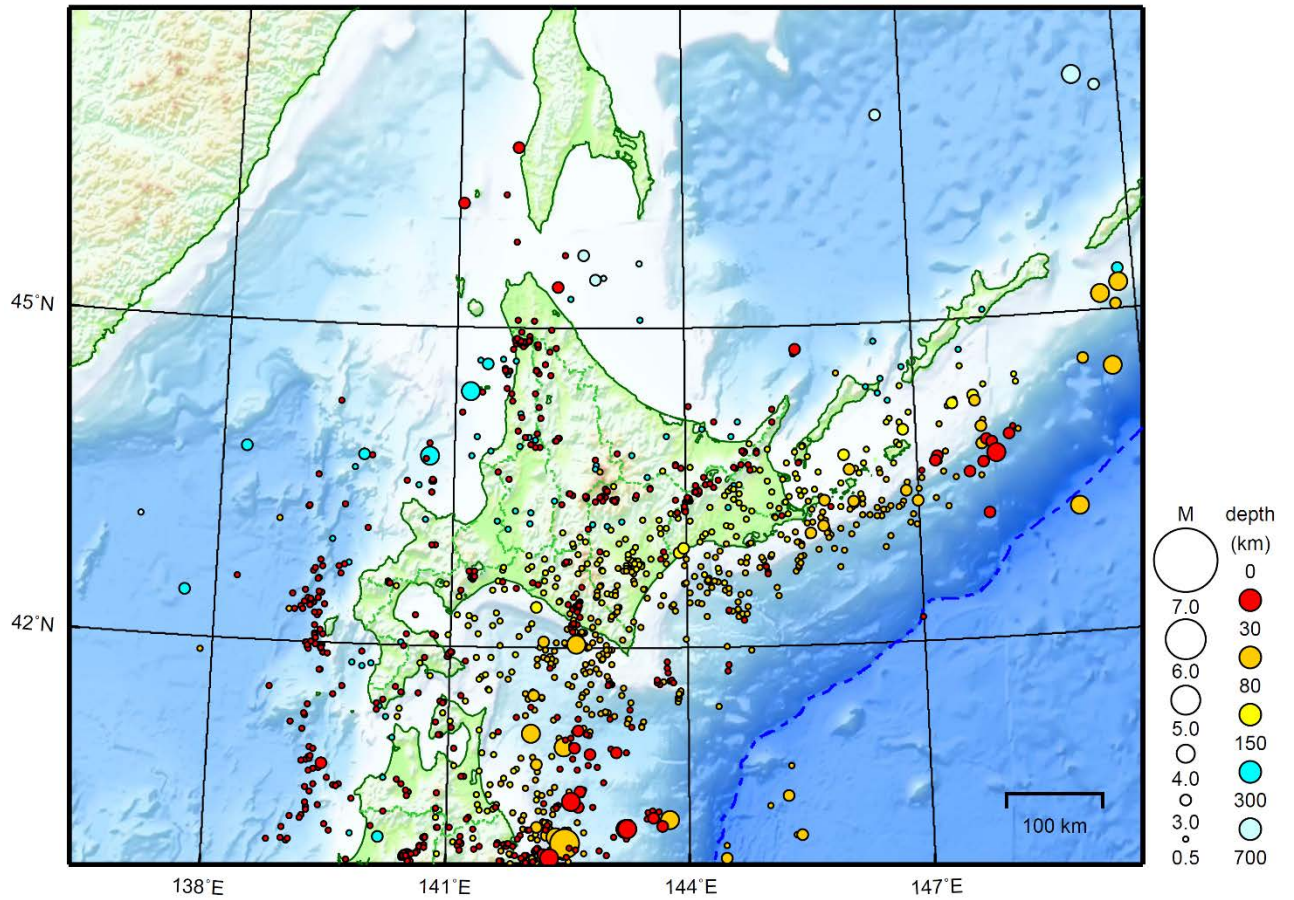
- ・「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」の活動域では、今期間に最大震度 4 以上を観測する地震は 1 回発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=1332



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

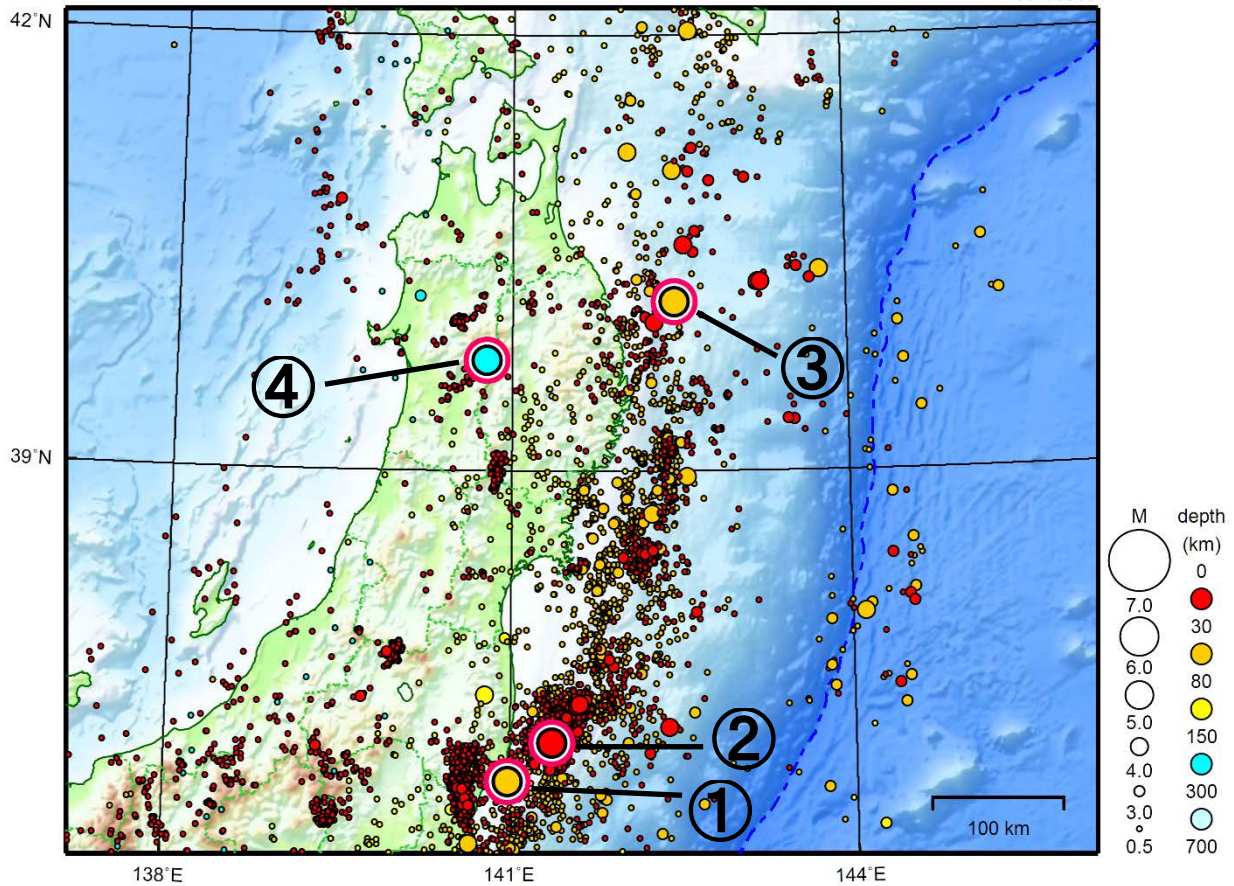
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

東北地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=11819



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 1月5日に福島県沖でM5.3の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 1月5日に福島県沖でM5.6の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 1月26日に岩手県沖でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。
- ④ 1月28日に秋田県内陸南部でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。

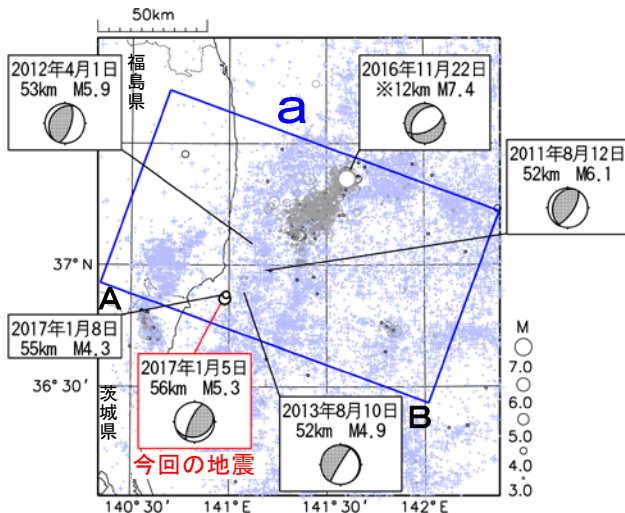
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

1月5日00時43分 福島県沖の地震

震央分布図

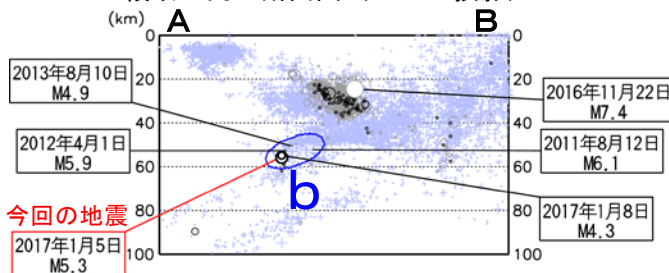
(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)

2016年11月21日以前に発生した地震を+、
2016年11月22日以降に発生した地震を薄い○、
2017年1月以降に発生した地震を濃い○で表示
図中の発震機構はCMT解



※2016年11月22日の地震 (M7.4) の深さはCMT解による。また、この地震の発生直後には、未処理の地震が存在している。

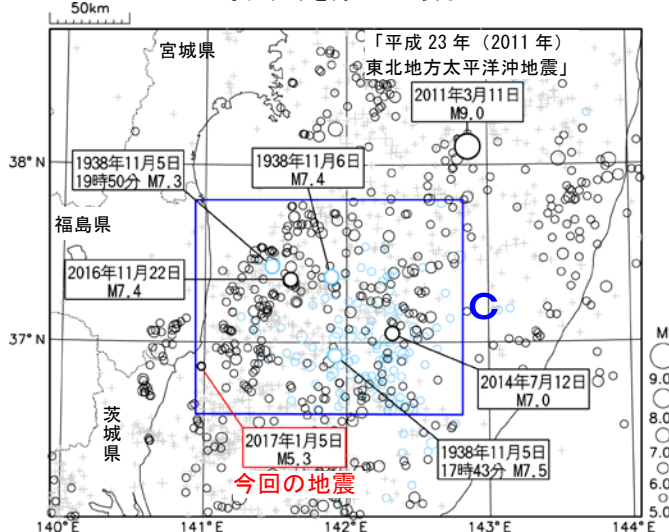
領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2017年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

1938年11月1日～12月31日に発生した地震を○、
東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を濃い○、
それ以外を薄い+で表示

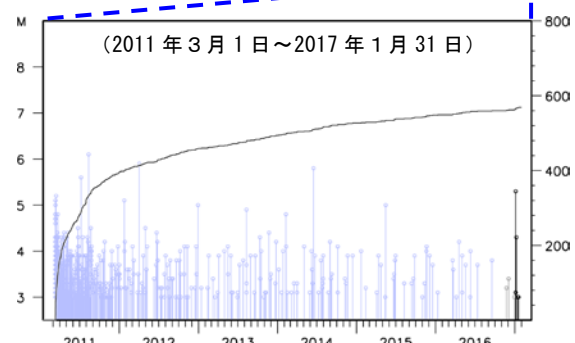
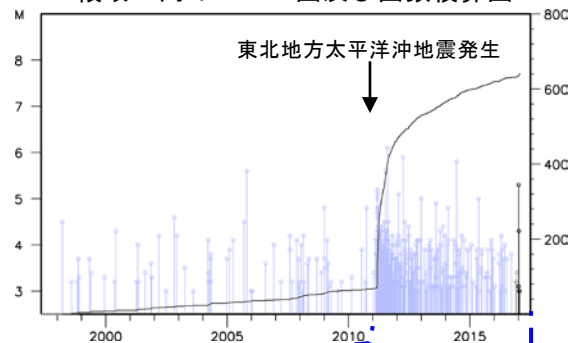


2017年1月5日00時43分に福島県沖の深さ56kmでM5.3の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は発震機構 (CMT解) が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した。

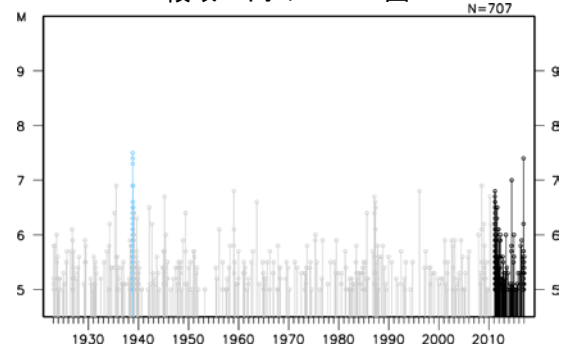
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M5.0を超える地震が発生するなど、普段から地震活動がみられ、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発化している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、1938年11月5日にM7.5の地震が発生した。この地震により、宮城県花巻で113cm (全振幅) の津波が観測された。この地震の発生後、地震活動が活発となり、同年11月30日までにM6.0以上の地震が25回発生していた。これらの地震により、死者1人、負傷者9人、住家全壊4棟、半壊29棟などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

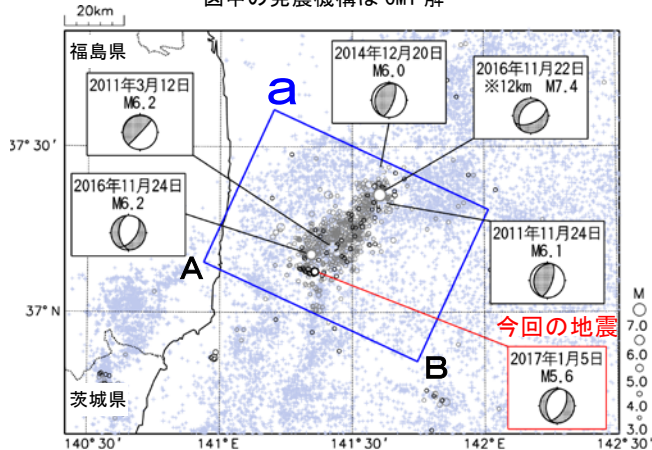


1月5日 02時53分 福島県沖の地震

(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～70km、 $M \geq 3.0$)

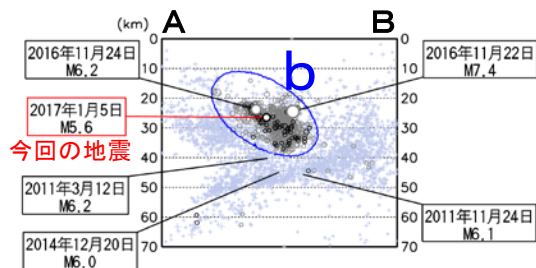
2016 年 11 月 21 日以前に発生した地震を+、
2016 年 11 月 22 日以降に発生した地震を薄い○、
2017 年 1 月以降に発生した地震を濃い○で表示

図中の発震機構は CMT 解



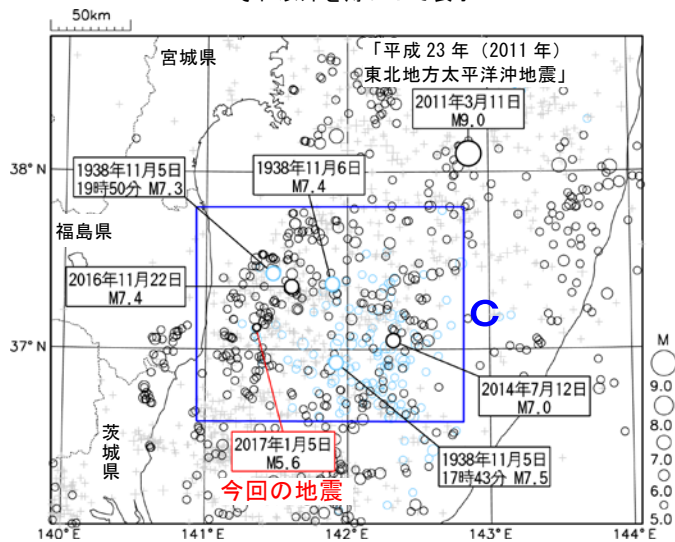
※2016年11月22日の地震(M7.4)の深さはCMT解による。また、この地震の発生直後には、未処理の地震が存在している。

領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



(1923 年 1 月 1 日～2017 年 1 月 31 日、
深さ 0～150km、 $M \geq 5.0$)

1938年11月1日～12月31日に発生した地震を○、
東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を濃い○、
それ以外を薄い+で表示

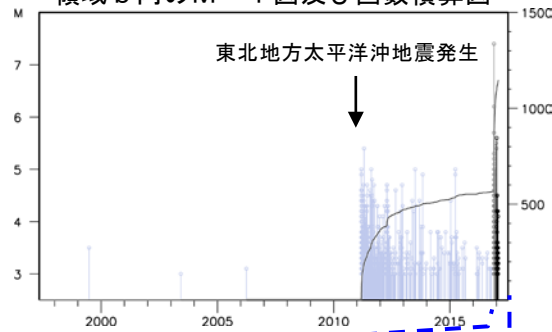


2017 年 1 月 5 日 02 時 53 分に福島県沖で M5.6 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は発震機構（CMT 解）が西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した。

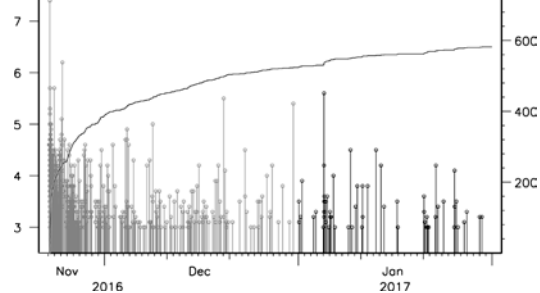
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 b）では、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発化した。地震活動が減衰傾向にあった中で、2016 年 11 月 22 日に M7.4 の地震が発生し、地震活動がさらに活発化し、本地震を含み 1 月 31 日までに M5.0 以上の地震が 14 回発生している。

1923 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、1938 年 11 月 5 日に M7.5 の地震が発生した。この地震により、宮城県花巻で 113cm（全振幅）の津波が観測された。この地震の発生後、地震活動が活発となり、同年 11 月 30 日までに M6.0 以上の地震が 25 回発生していた。これらの地震により、死者 1 人、負傷者 9 人、住家全壊 4 棟、半壊 29 棟などの被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。

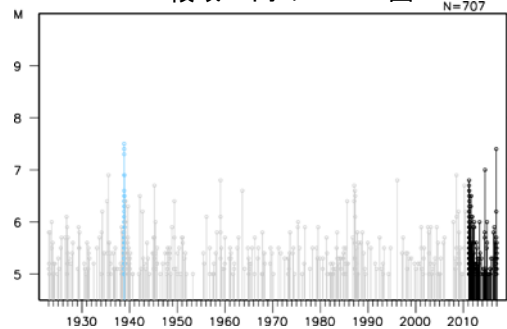
領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



(2016 年 11 月 22 日～2017 年 1 月 31 日)



領域 c 内の M-T 図

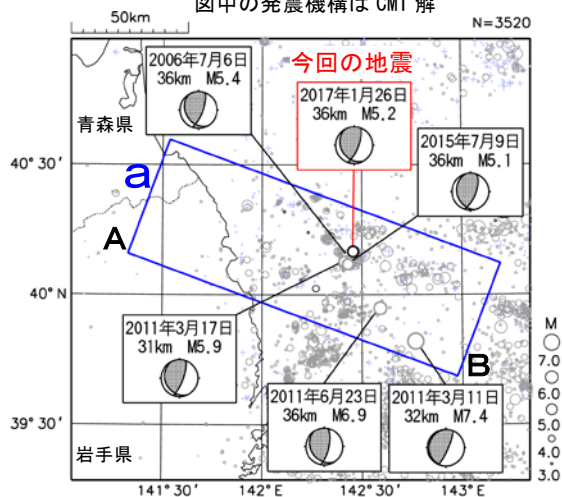


1月26日 岩手県沖の地震

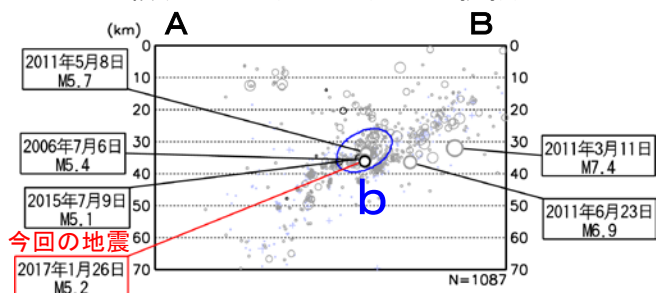
震央分布図
(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～70km、 $M \geq 3.0$)

東北地方太平洋沖地震以前に発生した地震を+
東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を薄い○
2017年1月の地震を濃い○で表示

図中の発震機構はCMT解

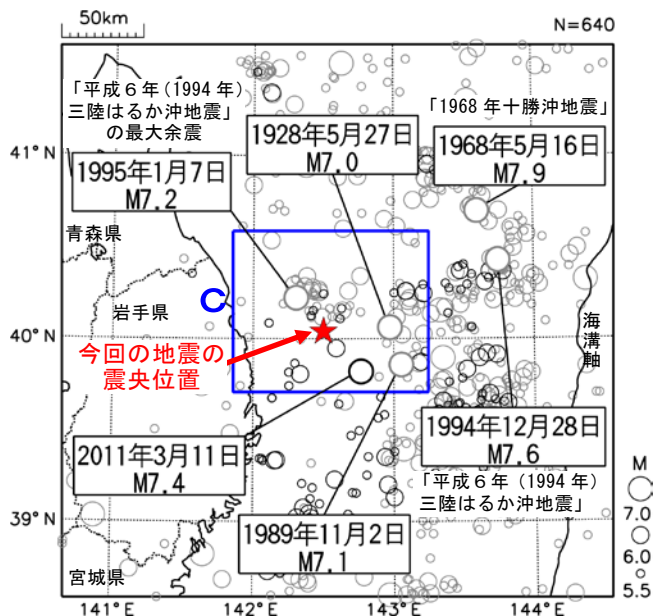


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図
(1923年1月1日～2017年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.5$)

東北地方太平洋沖地震発生以降の地震を濃く表示

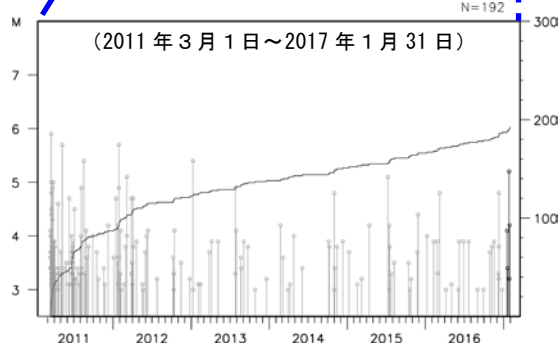
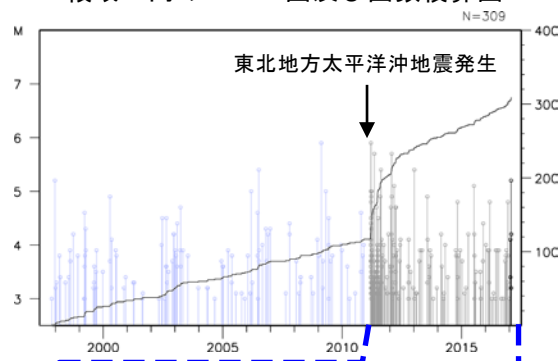


2017年1月26日17時06分に岩手県沖の深さ36kmで $M 5.2$ の地震(最大震度3)が発生した。この地震は発震機構(CMT解)が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

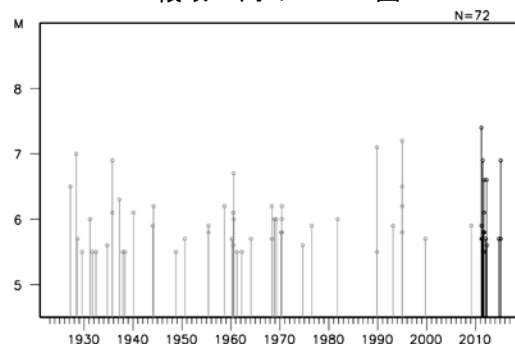
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生しており、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、地震活動がより活発化している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1995年1月7日に「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震($M 7.2$ 、最大震度5)が発生しているほか、 $M 7.0$ を超える地震が時々発生している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



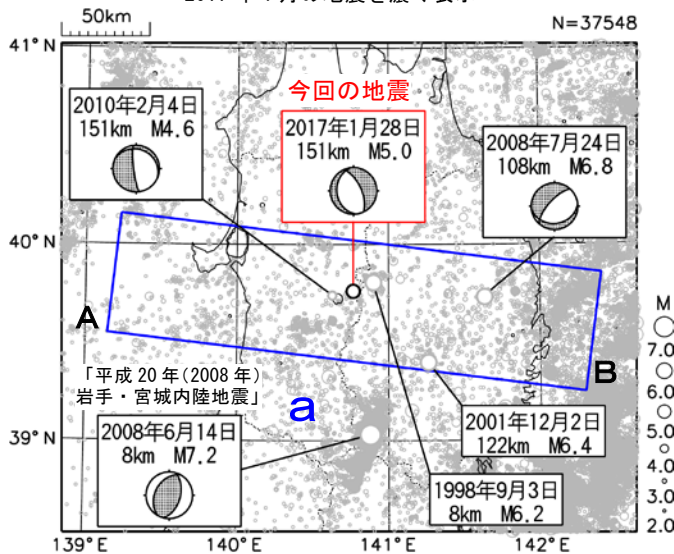
領域c内のM-T図



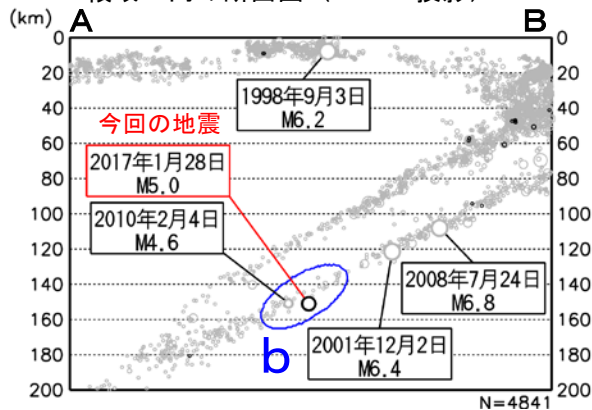
1月28日 秋田県内陸南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～200km、 $M \geq 2.0$)
2017年1月の地震を濃く表示



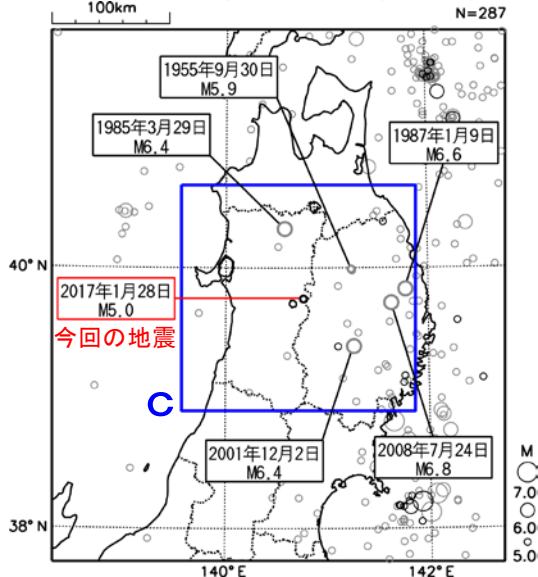
領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2017年1月31日、
深さ50～200km、 $M \geq 5.0$)

東北地方太平洋沖地震発生以降の地震を濃く表示

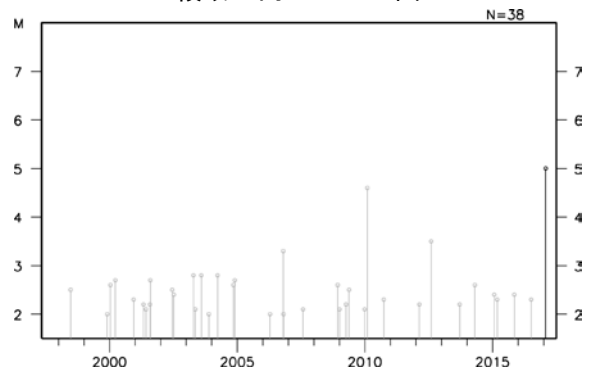


2017年1月28日22時40分に秋田県内陸南部の深さ151kmで $M 5.0$ の地震(最大震度3)が発生した。この地震は太平洋プレート内部(二重地震面の下面)で発生したもので、発震機構が東北東-西南西方向に張力軸を持つ型である。

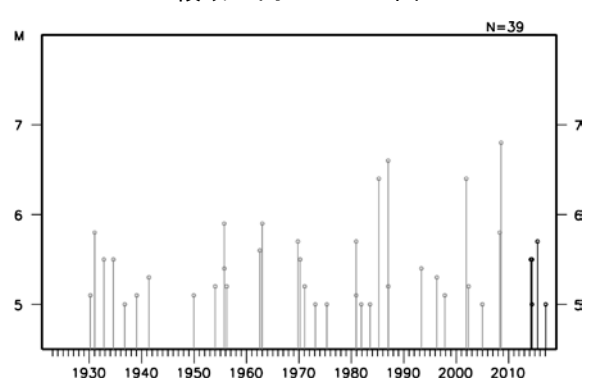
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 4.0$ を超える地震は2010年2月4日に発生した $M 4.6$ の地震(最大震度2)のみであった。

1923年1月以降の活動をみると、今回の震央周辺(領域c)では、太平洋プレート内部で $M 6.0$ 程度の地震が時々発生している。2008年7月24日に $M 6.8$ の地震(最大震度6弱)が発生し、死者1名、負傷者211名、住家全壊1棟、住家一部破損379棟などの被害が生じた。また、2001年12月2日に $M 6.4$ の地震(最大震度5弱)が発生し、住家一部破損2棟、文教施設8棟などの被害が生じている。(被害は総務省消防庁による)

領域b内のM-T図



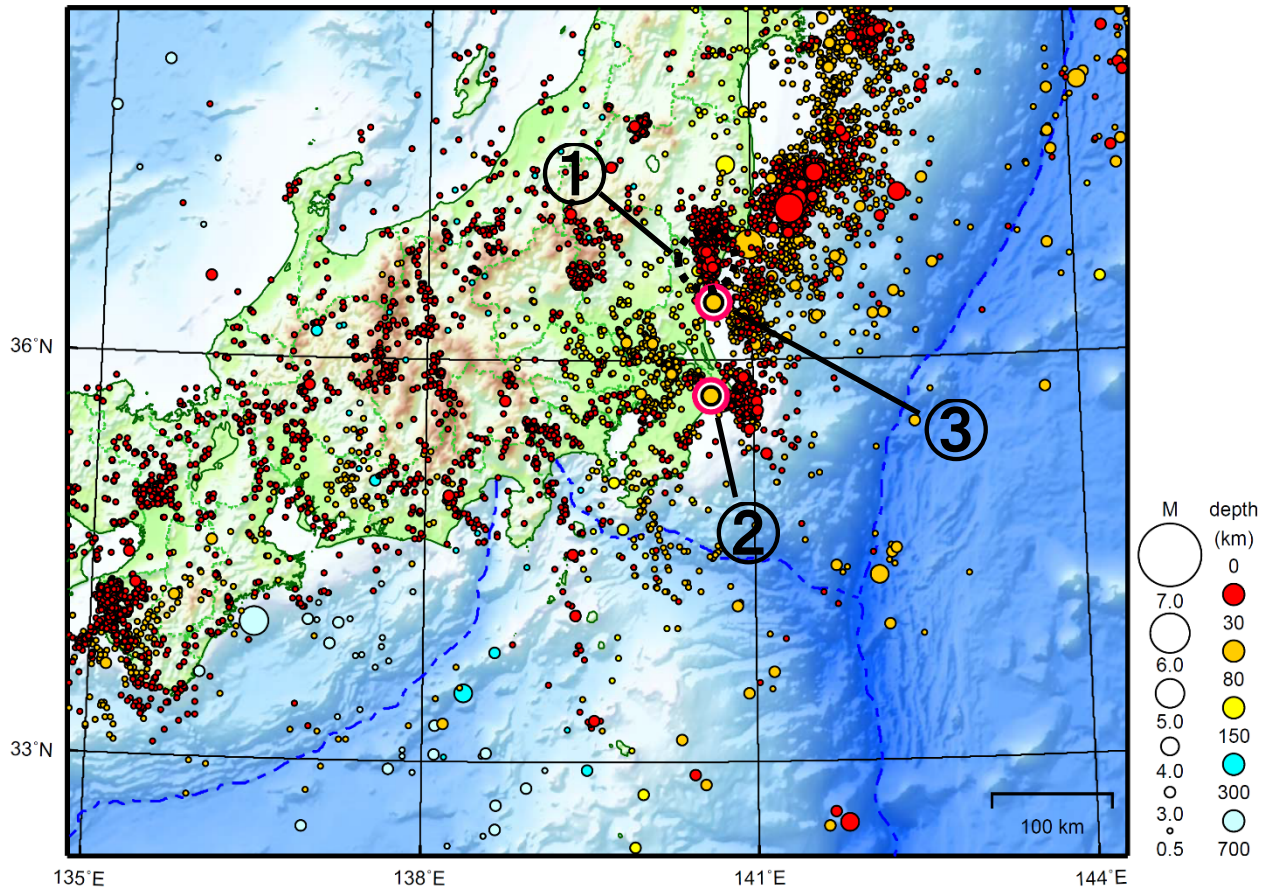
領域c内のM-T図



関東・中部地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=13363



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 茨城県北部では今期間に最大震度 4 以上を観測する地震は発生しなかった。
- ② 1 月 13 日に千葉県北東部で M4.9 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ③ 1 月 18 日に茨城県沖で M4.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

2016 年 12 月 28 日からの茨城県北部の地震活動

2017 年 1 月中の最大規模の地震は、1 月 1 日に発生した M3.7 の地震（最大震度 2、深さ 7 km）であった。この地震の発震機構は、東北東－西南西方向に張力軸を持つ正断層型である。また、1 月中に震度 1 以上を観測した地震は 13 回（最大震度 2：4 回、最大震度 1：9 回）発生した。

2016 年 12 月 28 日からの茨城県北部の地震活動は減衰しつつも、北北西－南南東方向に延びる長さ約 15km の領域で継続している。

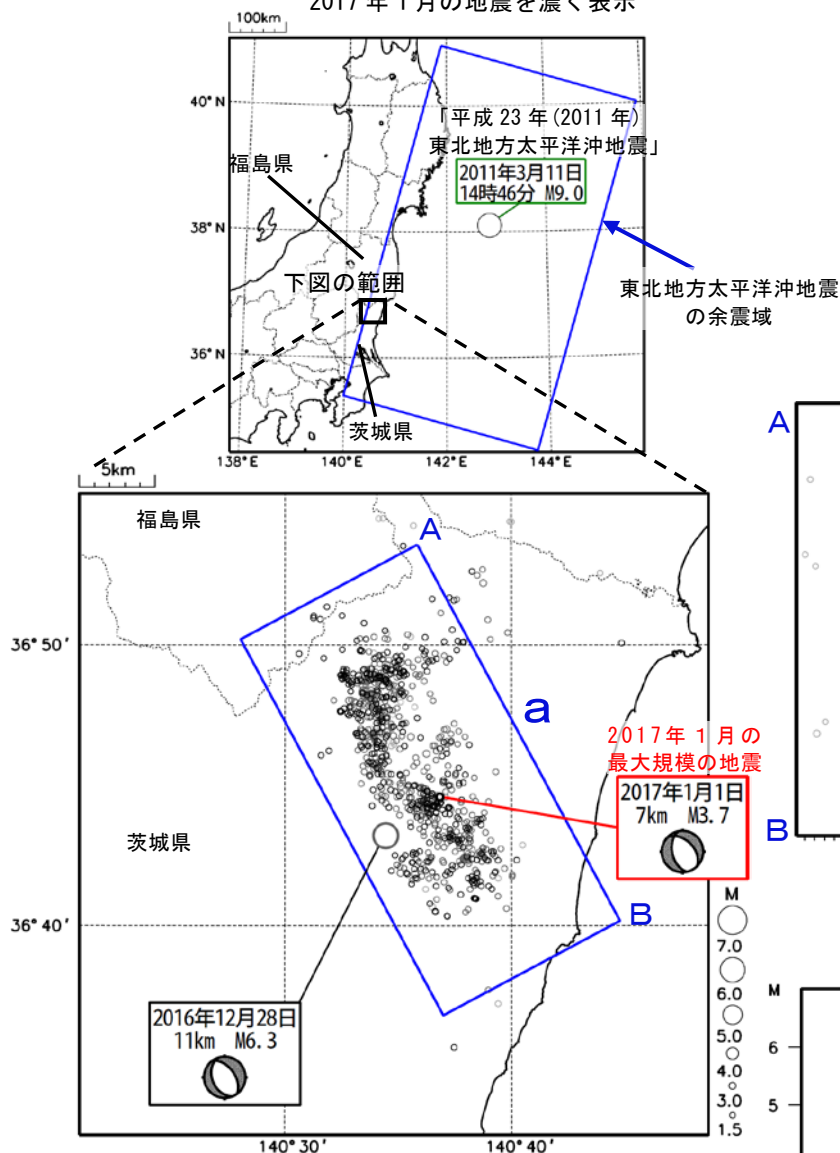
震央分布図

(2016 年 12 月 1 日～2017 年 1 月 31 日、深さ 0～20km、 $M \geq 1.5$)

2016 年 12 月 27 日までの地震を薄く表示

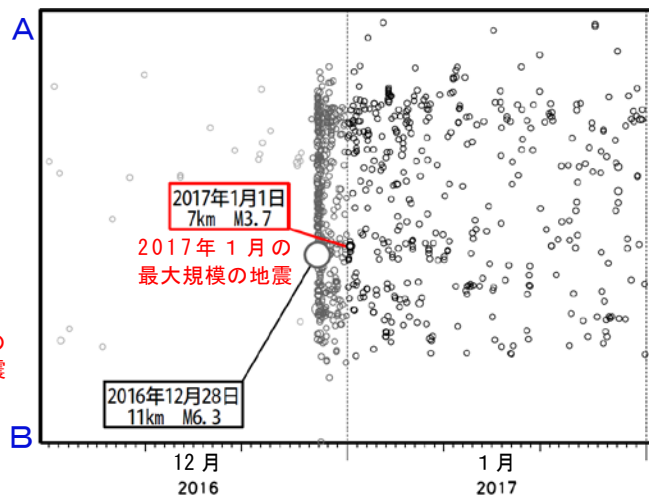
2016 年 12 月 28 日から 12 月 31 日の地震をやや濃く表示

2017 年 1 月の地震を濃く表示

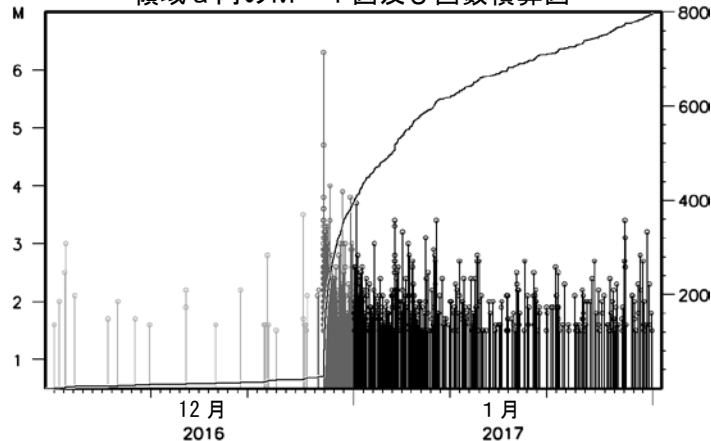


※12 月 28 日の地震発生後には、未処理の地震が存在している。

領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）



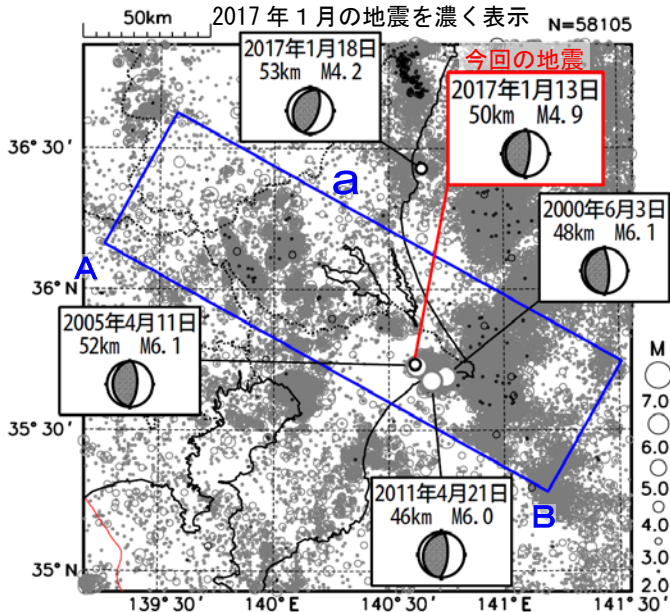
領域 a 内の M－T 図及び回数積算図



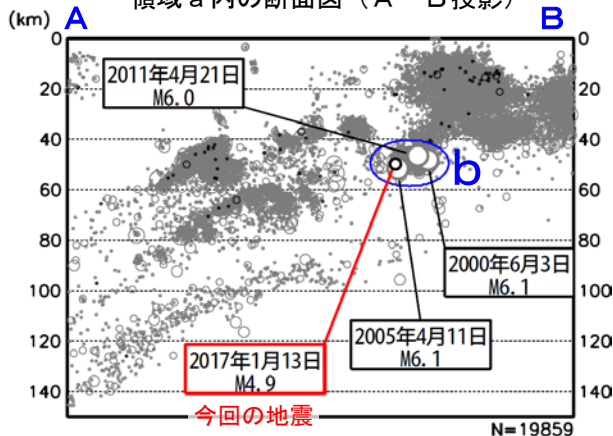
1月13日 千葉県北東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

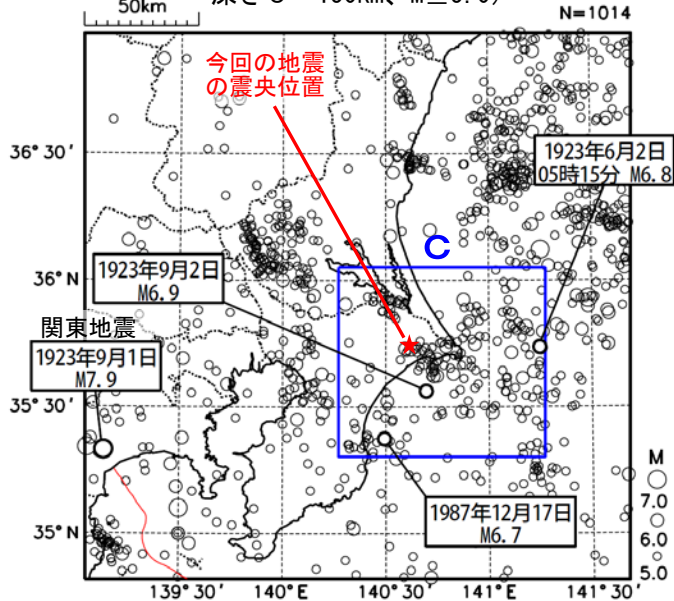


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

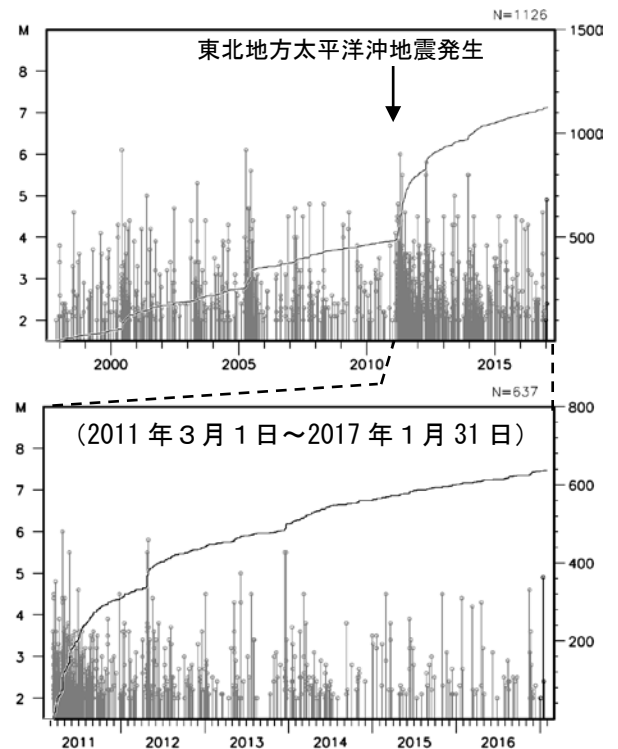
(1923年1月1日～2017年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



2017年1月13日12時25分に千葉県北東部の深さ50kmでM4.9の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

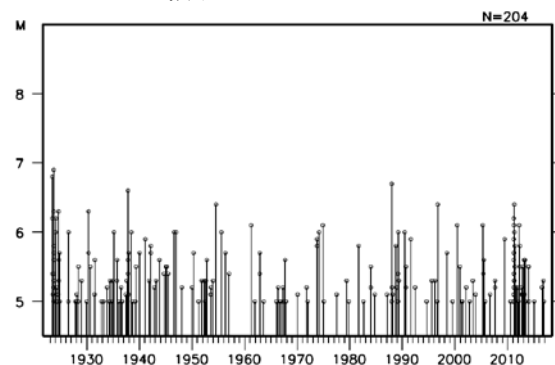
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、M6程度地震が時々発生している。「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降、地震活動がより活発になっていたが、その後、徐々に減衰している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0程度の地震が時々発生している。1987年12月17日にフィリピン海プレート内部で発生した千葉県東方沖の地震（最大震度5）では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

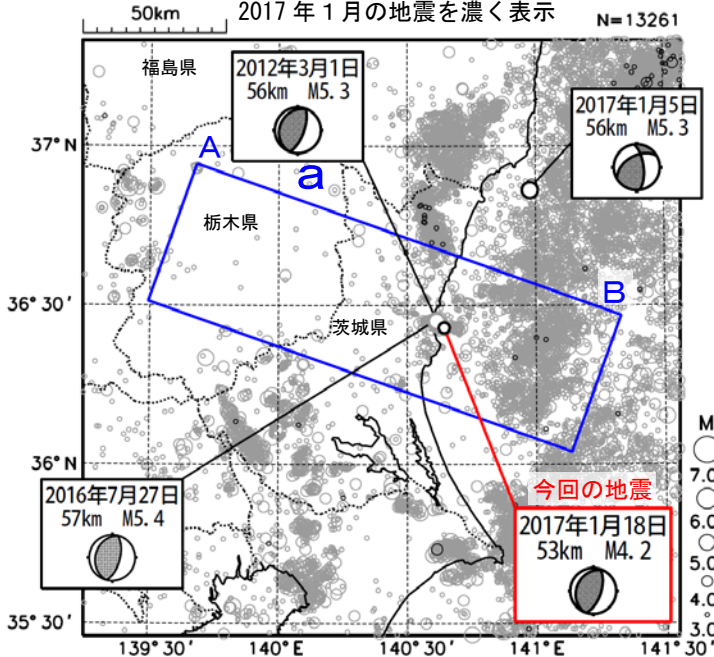
領域c内のM-T図



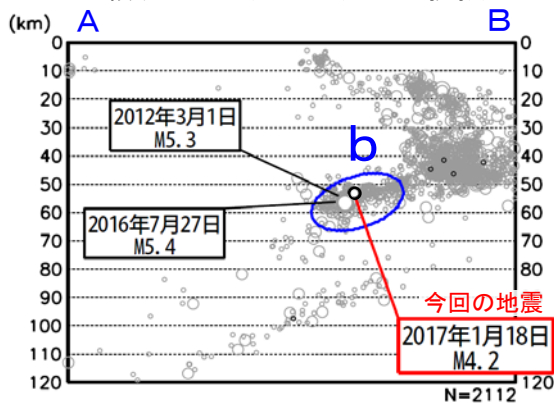
1月18日 茨城県沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年1月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)
2017年1月の地震を濃く表示

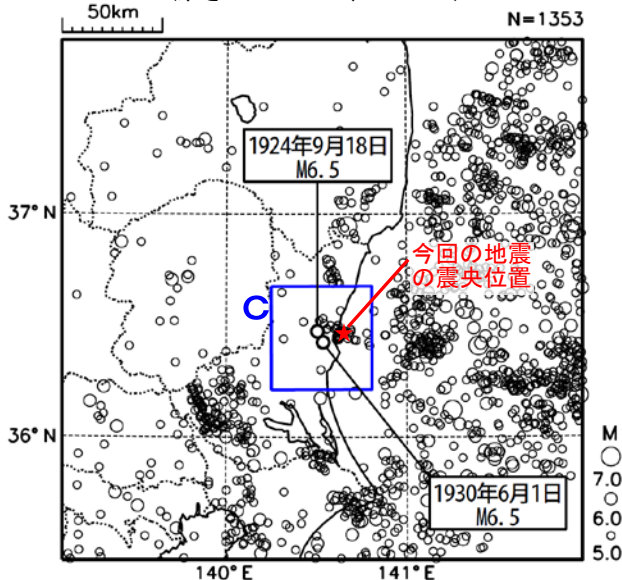


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2017年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

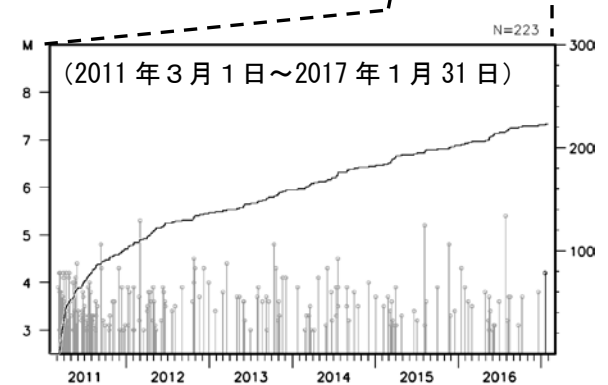
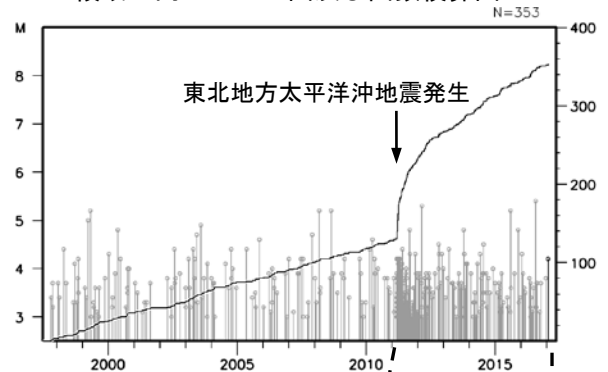


2017年1月18日17時19分に茨城県沖の深さ53kmでM4.2の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

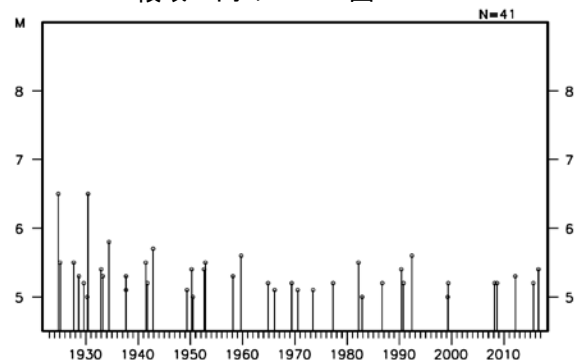
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、M5程度の地震が時々発生している。「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震、2016年7月27日にはM5.4の地震 (ともに最大震度5弱) が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域c) では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震 (最大震度5) では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



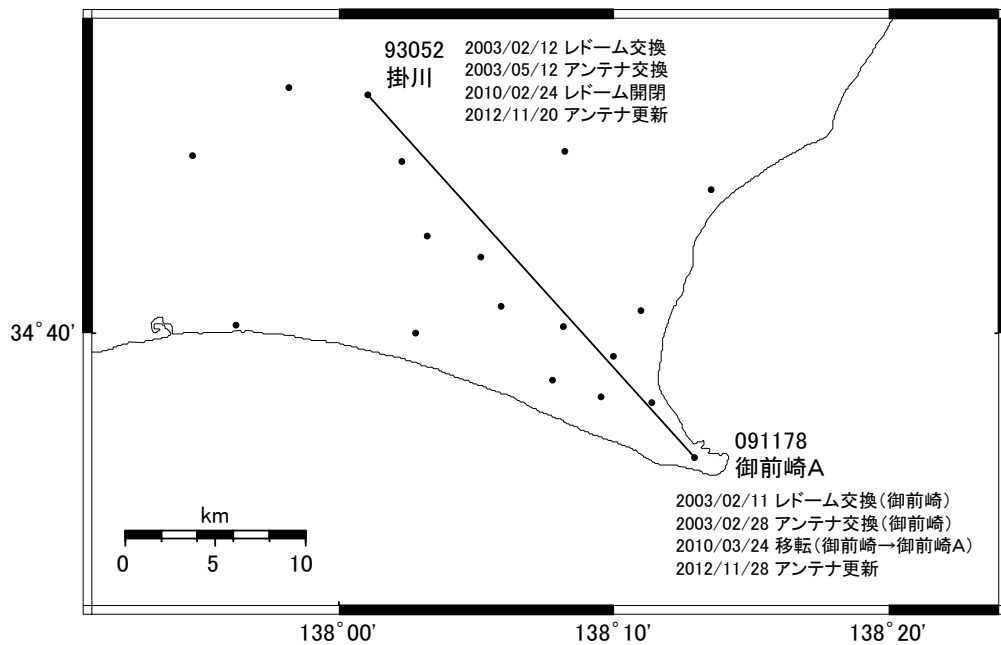
領域c内のM-T図



掛川市－御前崎市間のGNSS連続観測結果（斜距離・比高）

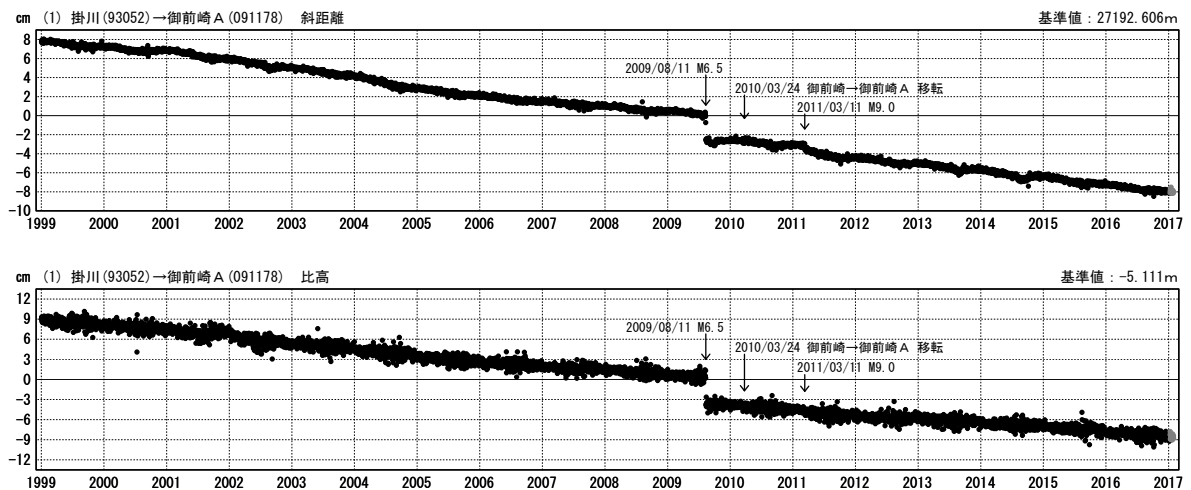
特段の変化は見られない。

基線図



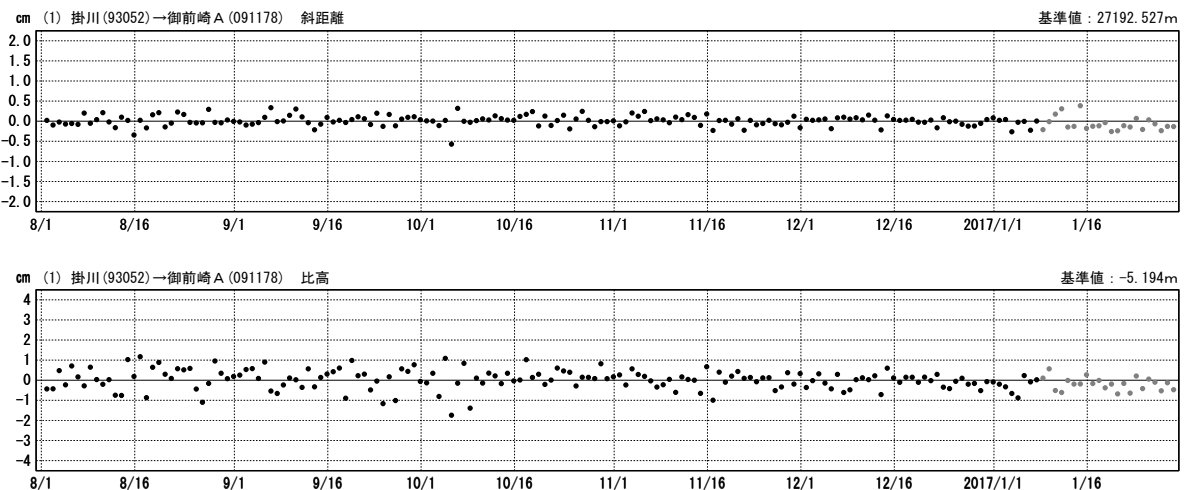
1999年1月からの基線変化グラフ（斜距離・比高）

期間：1999/01/01～2017/01/29 JST



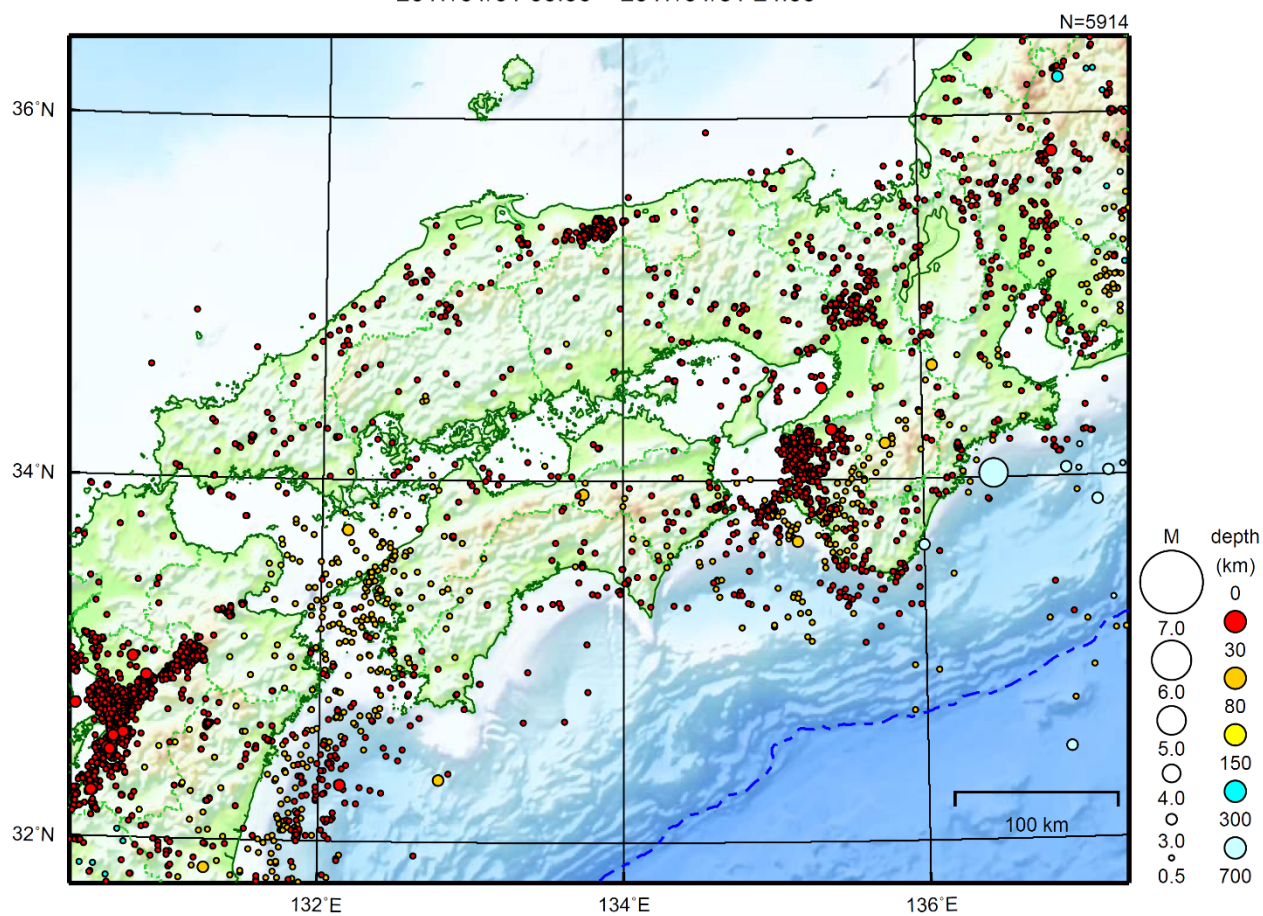
最近6ヶ月間の基線変化グラフ（斜距離・比高）

期間：2016/08/01～2017/01/29 JST



近畿・中国・四国地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

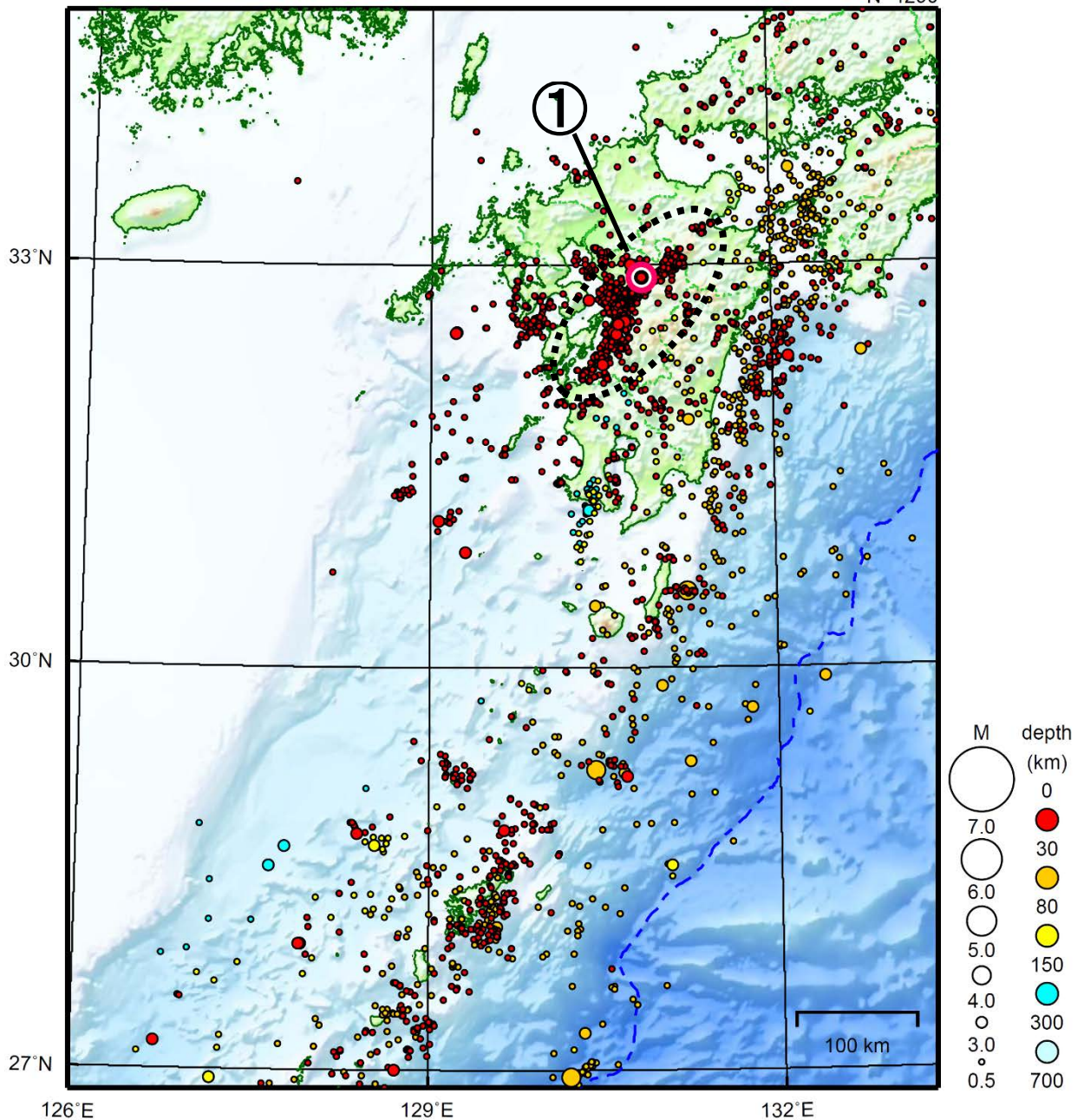
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

九州地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=4290



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域では、1 月 11 日に M3.4 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」

1 月 11 日 19 時 11 分に、熊本県熊本地方で M3.4 の地震（最大震度 4、深さ 9 km）が発生した。発震機構は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。1 月中の最大規模の地震は、1 月 26 日 23 時 34 分に熊本県熊本地方で発生した M3.9（最大震度 3、深さ 9 km）の地震で、発震機構は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

熊本県熊本地方（領域 a 3）及び阿蘇地方（領域 a 2）における「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。大分県中部（領域 a 1）の活動は低下した。

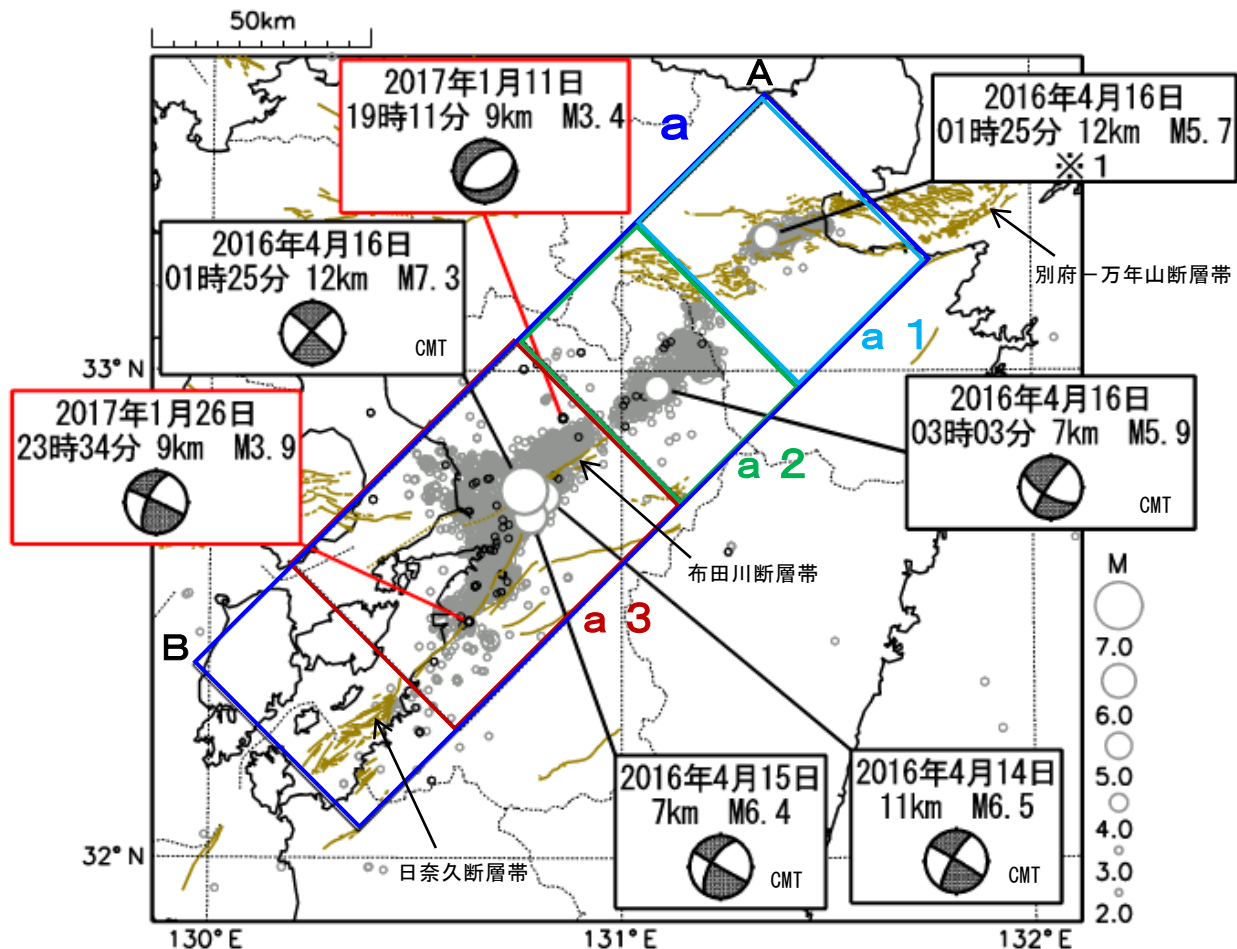
1 月中に震度 1 以上を観測した地震は 32 回（最大震度 4：1 回、最大震度 3：1 回、最大震度 2：8 回、最大震度 1：22 回）発生した。

今回の一連の地震活動により、死者 193 人、負傷者 2,717 人、住家全壊 8,414 棟などの被害が発生した（2 月 1 日 11 時 30 分現在、総務省消防庁による）。

震央分布図

（2016 年 4 月 14 日 21 時～2017 年 1 月 31 日、深さ 0～20km、M $\geq$ 2.0）

2017 年 1 月の地震を濃く表示

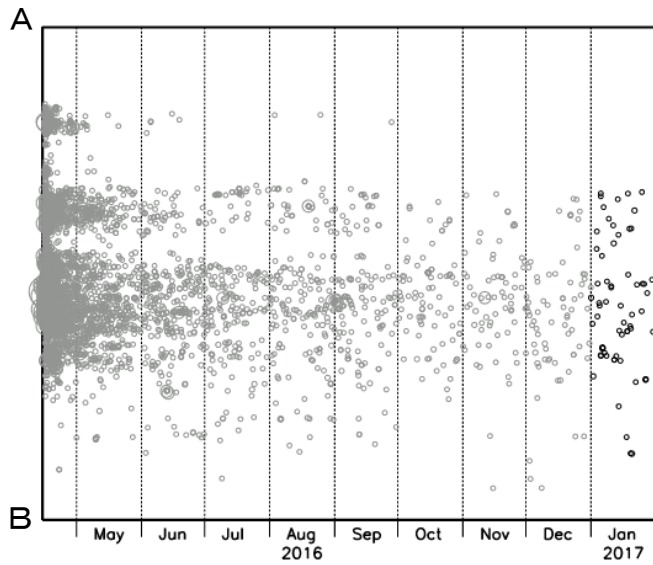


図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

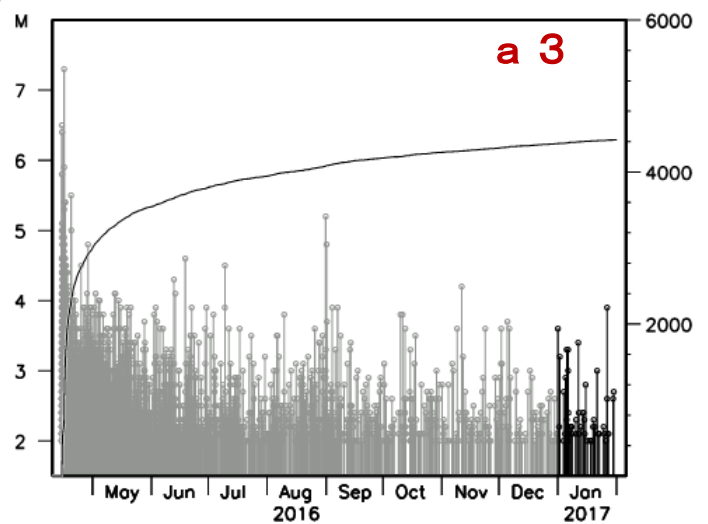
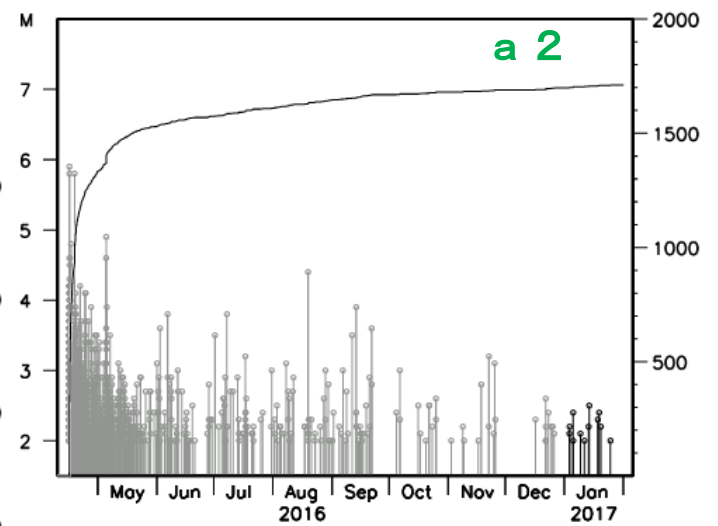
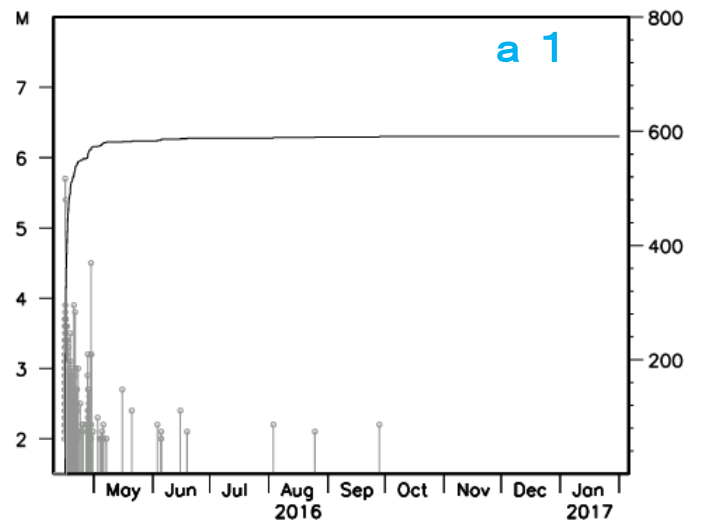
M6.0以上の地震と各領域で最大規模の地震（2017年1月の地震は最大震度を観測した地震と最大規模の地震）に吹き出しをつけている。

※1 M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。

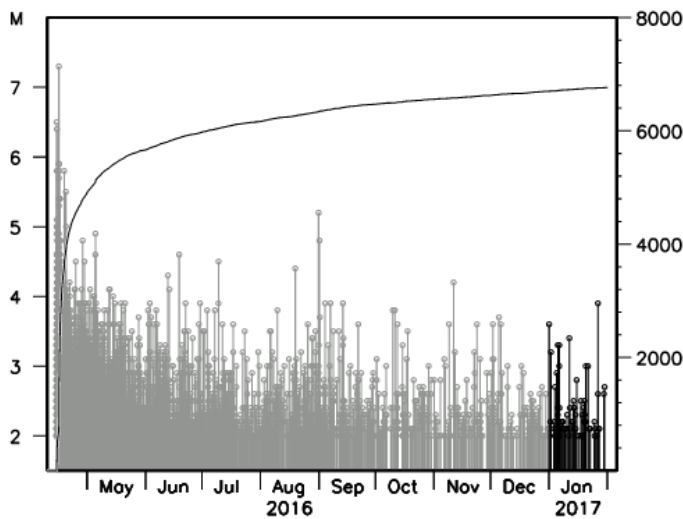
領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）
 (2016 年 4 月 14 日 21 時～2017 年 1 月 31 日)



領域 a1, a2, a3 内の M－T 図及び回数積算図
 (2016 年 4 月 14 日 21 時～2017 年 1 月 31 日)



領域 a 内の M－T 図及び回数積算図

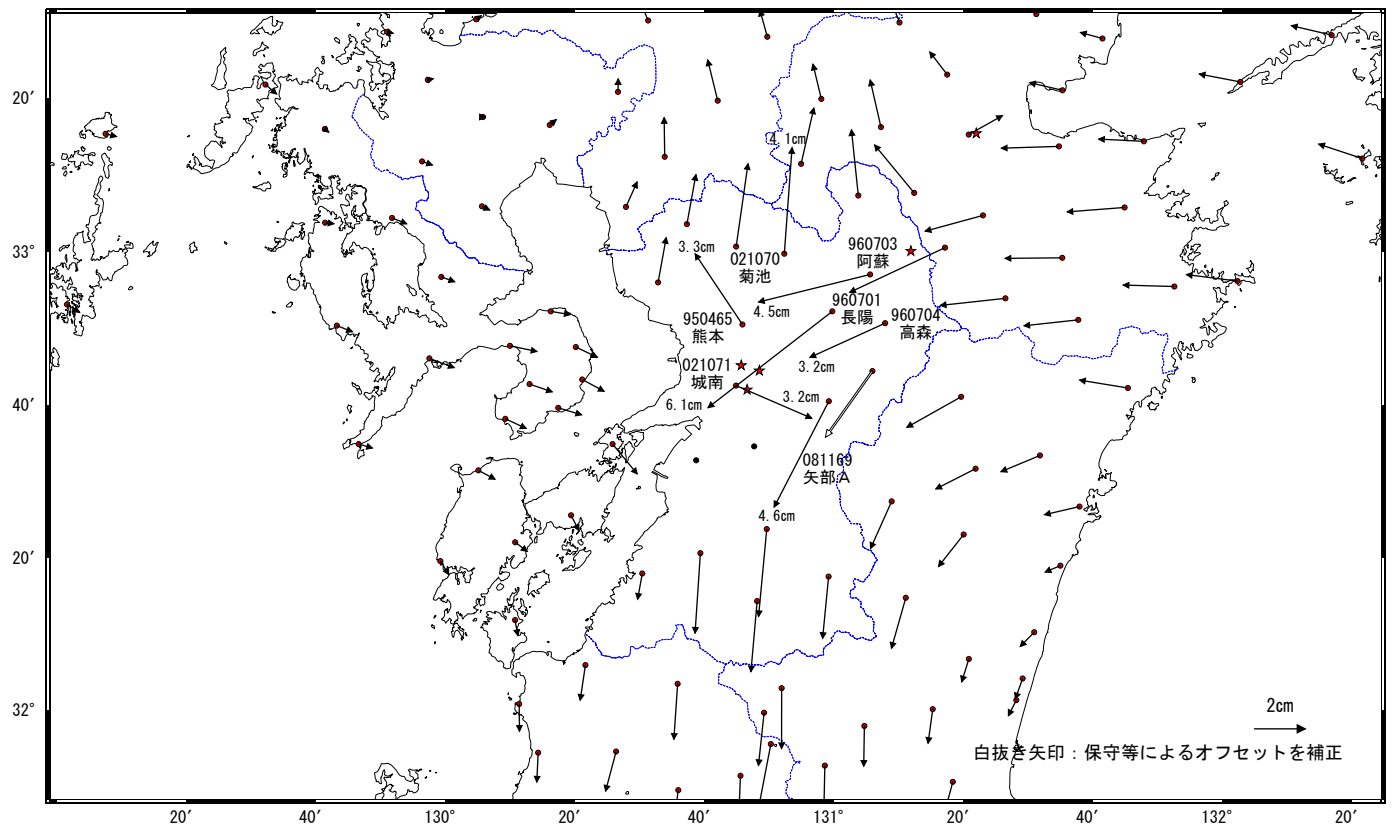


平成28年(2016年)熊本地震(4月16日 M7.3)の余効変動(1)

この地震後に地殻変動が観測されている。

基準期間:2016/04/17~2016/04/17[F3:最終解]
比較期間:2017/01/26~2017/01/28[R3:速報解]

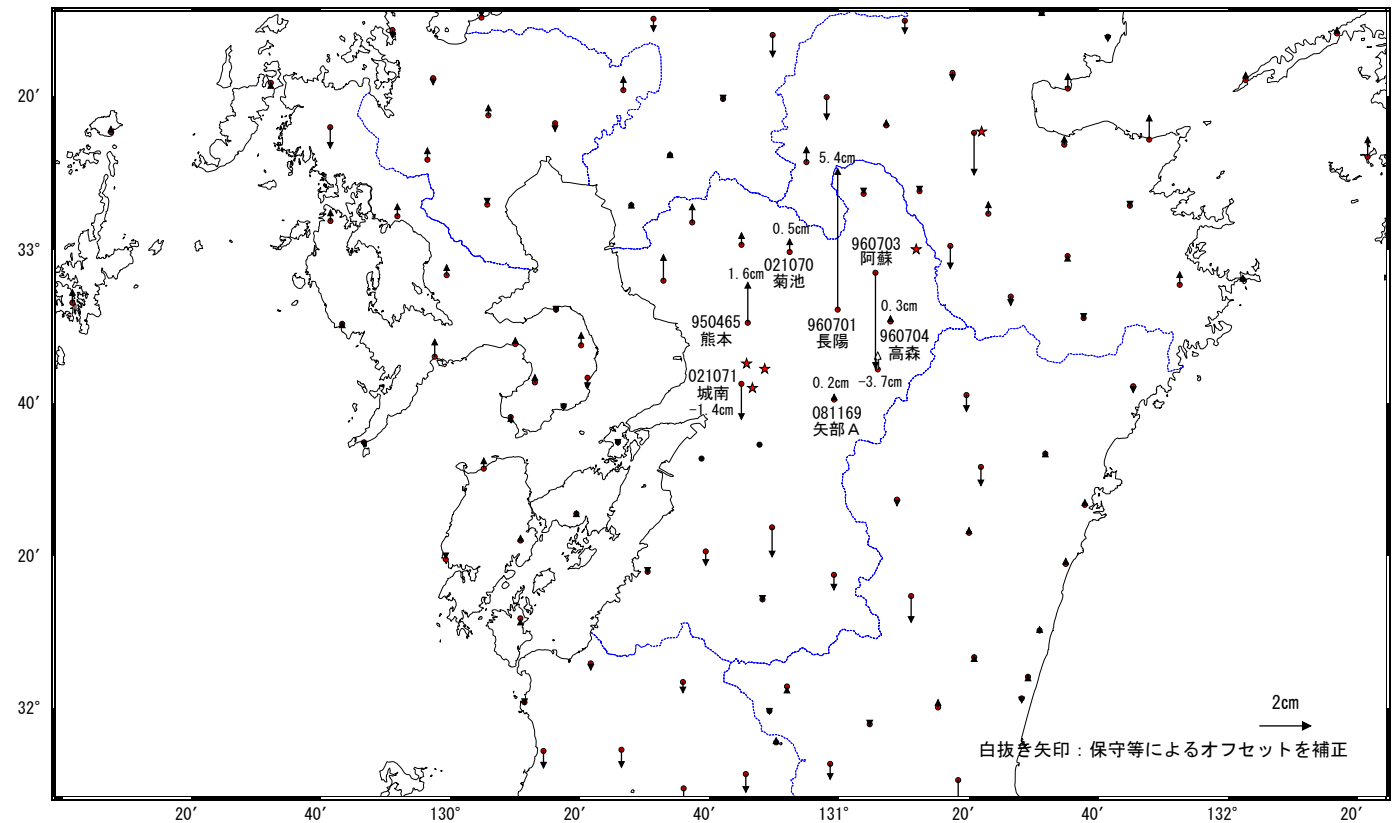
地殻変動(水平)



☆ 固定局: 三隅 (950388)

基準期間:2016/04/17~2016/04/17[F3:最終解]
比較期間:2017/01/26~2017/01/28[R3:速報解]

地殻変動(上下)

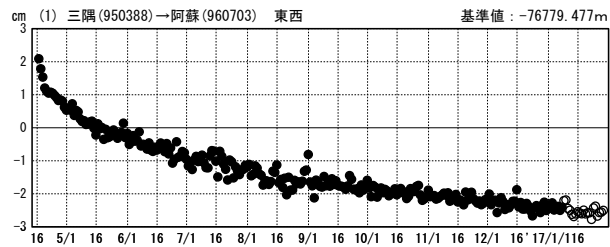


☆ 固定局: 三隅 (950388)

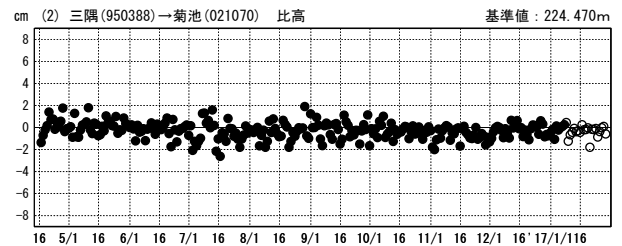
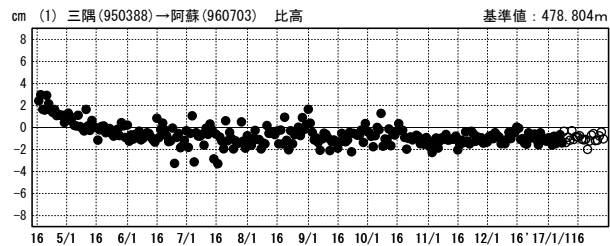
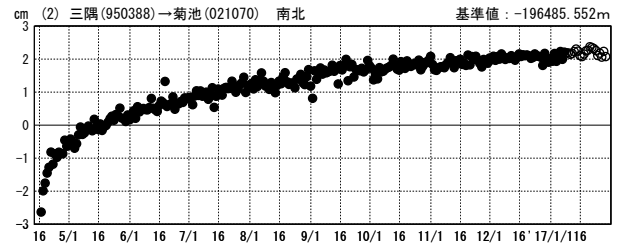
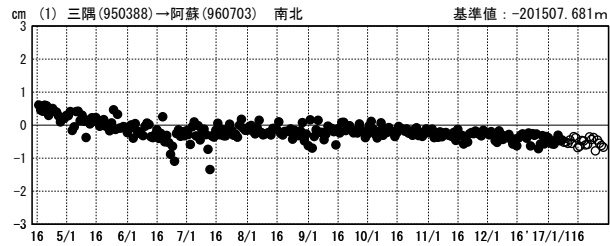
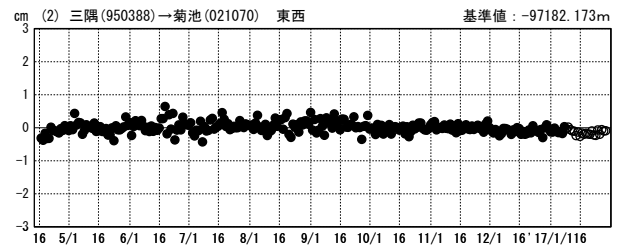
平成28年(2016年)熊本地震(4月16日 M7.3)の余効変動(2)

成分変化グラフ

期間: 2016/04/16~2017/01/28 JST

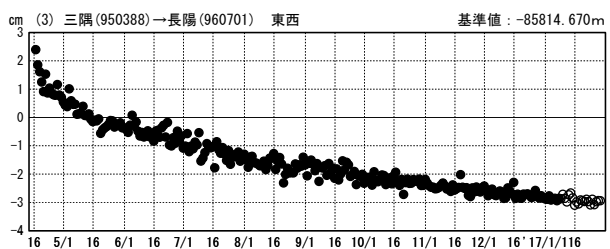


期間: 2016/04/16~2017/01/28 JST

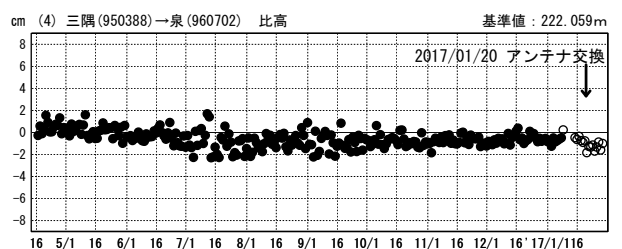
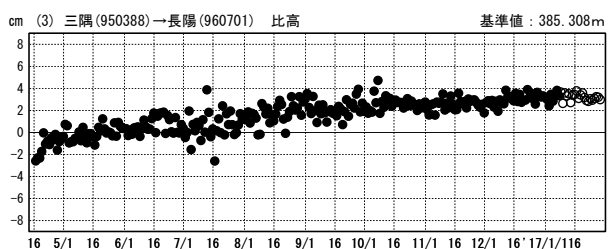
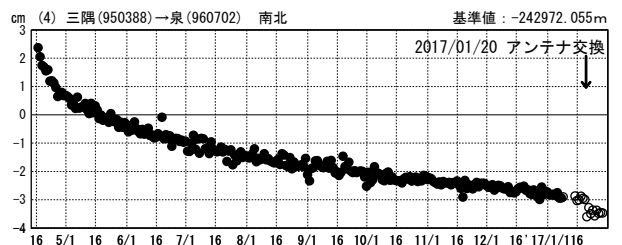
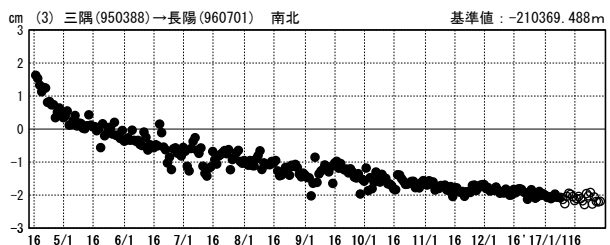
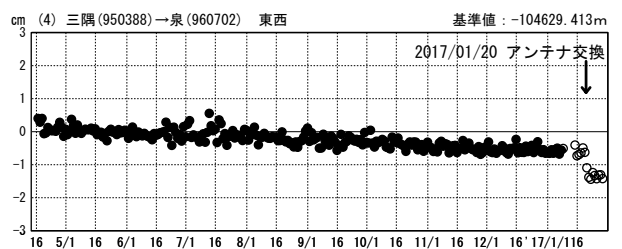


●---[F3:最終解] ○---[R3:速報解]

期間: 2016/04/16~2017/01/28 JST



期間: 2016/04/16~2017/01/28 JST

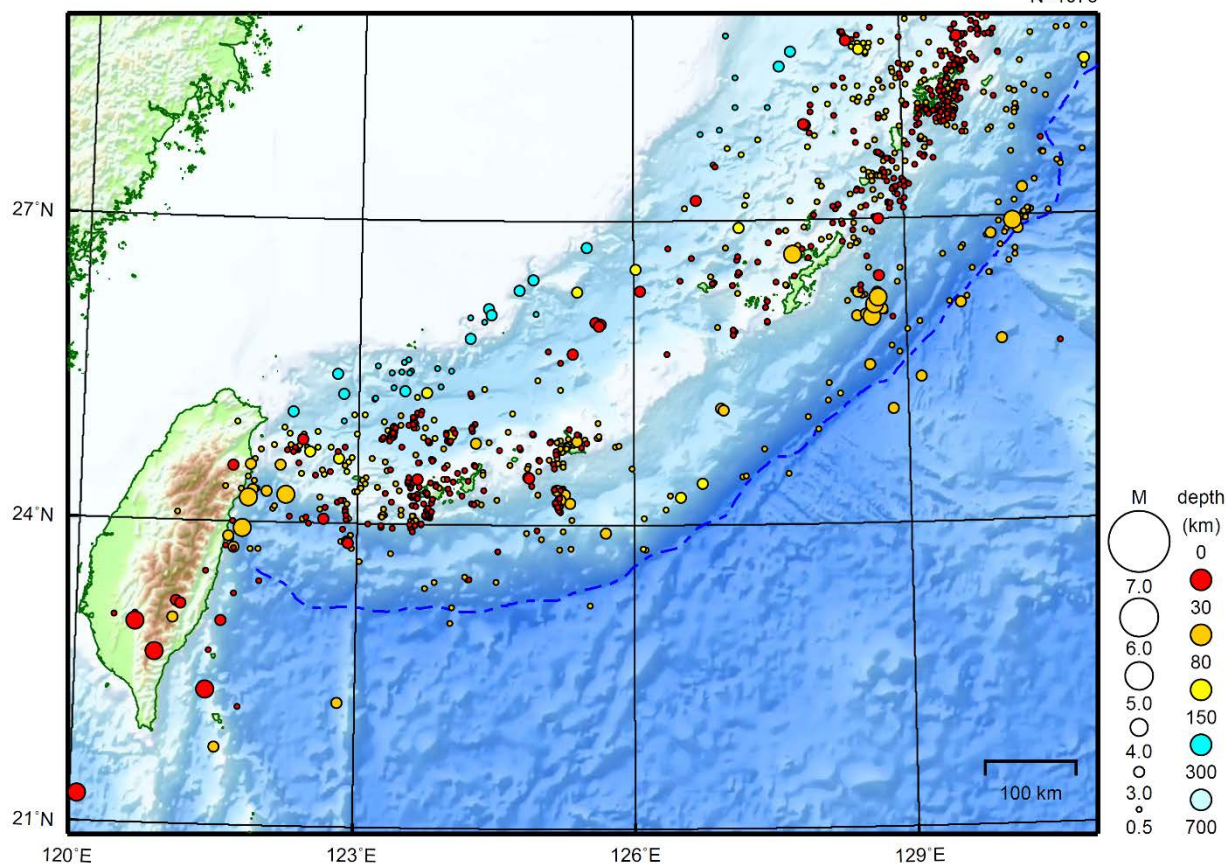


●---[F3:最終解] ○---[R3:速報解]

沖縄地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=1078



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省